

校長室から
(R元年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 20

令和元年7月8日(月)発行

「水の事故」に注意しましょう！

6/26に近畿地方は梅雨入りしました。この梅雨が明けると、暑い夏がやって来ます。川や海、プールで遊ぶことも多いかと思います。そこで、大事な注意です。

もし、川の近くで友だちと遊んでいて、友だちが川に誤って落ちてしまったらどうしますか。「僕は泳ぎが得意だから」と飛び込んで助けますか？ 実は、水の事故で亡くなる方のほとんどは、おぼれた人ではなく、助けようと水に入った人なのです。お父さんが子どもを助けようとして亡くなったり、近くのおじさんが助けようとして飛び込んでなくなったりしているのです。

水の中でおぼれかけている人を、水の中に入って助けることはとても危険です。トレーニングを積んだ救助員の方でも、できるだけ水に入らず、泳がないで助けられる救助方法を使います。泳いで助けるのは最後の手段です。ましてや、みなさんのような子どもが水の中に入って助けることは、絶対にしてはいけません。

それでは、水の中でおぼれかけている友だちを助けることはできないのでしょうか。いいえ、子どもでも人の命を助けることができます。一つは大きな声で大人の人を呼ぶことです。子どもの声は大人の声よりも高く遠くまで響くので、大人には気がつきやすいのです。危険を知らせるときは、できる限りの声を振り絞って大人を呼んでください。これは、みなさんができる最高の救助です。もう一つ、何か水に浮かぶ物を投げてあげましょう。ペットボトル、バッグ、特にランドセルがあったら、これはよく浮かびますからすぐに中身を出して水の中に投げ入れましょう。浮かぶ物がなければ、木の枝などのようにつかまれる物でも良いでしょう。

万が一、川や海で流されたりおぼれたりしても、顔が水面から出ていれば鼻や口で呼吸をすることができますね。安全な姿勢は、足が下にならないよう水平に体を保つ「背浮き」という姿勢です。足を開いて両手を開いて大の字になってみると、意外と体は浮いてくるそうですが、この形をイギリスでは「スターシェイプ(星の形)」と言うそうです。

多く人が水に落ちてしまったときに泳ごうとしますが、それはかえって危険な行動です。最近ではこの姿勢で救助が来るまで待つことを「浮いて待て」という合言葉にしているそうですが、スリランカやフィリピン、アメリカなど海

外の国でも「U I T E M A T E」という名前のトレーニングを行ったり指導員の養成講習会が開かれたりしているそうです。

本格的な水遊びのシーズンですが、何よりも大事なことは事故に遭わないこと。また、大人のいないところで遊んだりしないこと、台風や大雨の後の川のそばに近づかないことなどの約束をお家の方と確かめてください。



☆ 水辺で遊ぶときは

- **子どもだけで、遊びに行かない！**
- **立入禁止区域、危険区域では絶対に遊ばない！**
- **雨が降ったあとや降りそうな時は、近づかない！**

茨木市教育委員会